

医療的ケアを要する子どもに対する訪問看護についてのアンケート調査結果

H24.4.5現在

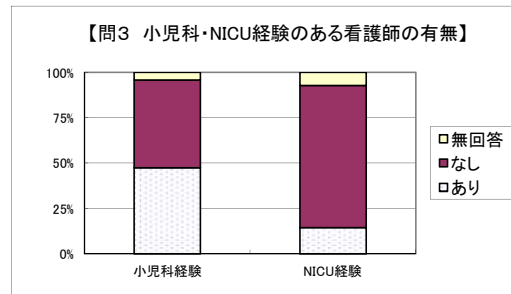
問1 事業所の規模(省略)

問2 24時間体制の有無について

あり	なし	無回答	合計
65	30	2	97

問3 小児科・NICU経験のある看護師の有無について

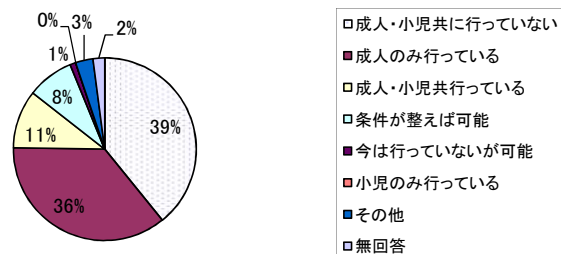
	あり	なし	無回答	合計
小児科経験	46	47	4	97
NICU経験	14	76	7	97



問4 訪問看護中にご家族に休息を取ってもらう、外出してもらうなど(レスパイトケア)の実施の有無について

成人・小児共に行っていない	38
成人のみ行っている	35
成人・小児共に行っている	10
条件が整えば可能	8
今は行っていないが可能	1
小児のみ行っている	0
その他	3
無回答	2
合計	97

【問4 レスパイトケアの実施の有無】

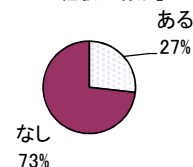


※その他:記載無し

問5 医療的ケアを要する小児の訪問看護の経験の有無について

ある	なし	合計
26	71	97

【問5 医療的ケアを要する小児の訪問看護の経験の有無】



問6 小児の利用者について(問5で「ある」と回答した事業所のみ:母数26)

	項目	数	割合(%)
(1) 小児の訪問看護開始から現在までの期間	1年未満	1	4
	1～5年	10	38
	5～10年	6	23
	10年以上	2	8
	無回答	7	27
	合計	26	100
(2) 今まで訪問した小児の総数	1名	10	38
	2～5名	14	54
	6名以上	2	8
	合計	26	100

	項目	数	割合(%)
(3) 現在訪問している小児の数	0名	8	31
	1名	10	38
	2～5名	7	27
	無回答	1	4
	合計	26	100
(4) 小児一人に対する平均訪問回数(回/月/人)	1～5回	12	46
	6～10回	8	31
	11～20回	4	15
	無回答	2	7
	合計	26	99

問7 今までに訪問した小児の利用者の医療的ケアについて(複数選択可)
(問5で「ある」と回答した事業所のみ:母数26)

気管切開	経管栄養	在宅酸素	在宅人工換気	経静脈栄養	自己導入	腹膜透析	その他
18	16	11	10	5	4	0	8

※その他:記載無し

問8 今後小児の依頼があった時の対応可能な医療的ケアについて(複数選択可)

経管栄養	在宅酸素	気管切開	在宅人工換気	自己導入	経静脈栄養	腹膜透析	その他
23	23	19	15	13	11	7	1

※その他:ストマ管理

問9 現在訪問看護を行っている小児の利用者について、訪問看護の指示はだれから受けているか。
(問5で「ある」と回答した事業所のみ:母数26)

基礎疾患を診ている病院勤務医	18
基礎疾患を診ている開業医	0
訪問診療を行っている開業医	0
無回答	8

問10 今後、小児の利用者の受入れを拡大したいと考えているか。
(問5で「ある」と回答した事業所のみ:母数26)

はい	いいえ	合計
9	17	26

問11 受け入れの拡大の具体的な内容について(複数回答可)
(問10で「はい」と回答した事業所のみ:母数9)

対象の人数を増やす	7
家族のレスパイトにも対応	6
医療的ケアの対応拡大	0
その他	1

※その他:記載無し

問12 小児の利用者の受入れを拡大する意向がない理由について(複数選択可)
 (問10で「いいえ」と回答した方のみ:母数17)

看護師の人手不足	13
小児看護の経験のある看護師がいない、少ない	9
小児ケアの知識を得る機会が少ない	9
基礎疾患の知識を得る機会が少ない	7
小児訪問看護経験が少ない	6
医師との連携が不十分	5
医療依存度が成人より高い	4
処置の手技が難しい	4
診療報酬不十分で労力に見合わない	3
その他	2

※その他:現在の利用者で限界

問13 今まで訪問した小児の利用者の基礎疾患について(複数回答可)
 (問5で「ある」と回答した事業所のみ回答:母数26)

先天代謝異常	15
新生児発症の疾患	14
神経筋疾患	7
血液疾患・腫瘍性疾患	4
消化器系疾患	2
泌尿器科系疾患	0
その他	4

※その他:交通外傷による頸椎麻痺、脳出血後遺症、脳性麻痺、ムコ多糖症

問14 小児の在宅医療についての自由意見(主なもののみ記載)

○小児看護の研修や情報交換をととした資質の向上

- ・小児在宅医療の実際や知識・技術を習得する機会が必要。(6)
- ・経験が少なく不安。(2)

・できるだけ多くのステーションが訪看を受け入れていくことで、小児科経験がなくてもお互いに学習や情報交換を通してレベルアップしていける。受け入れてみて、成人との違いはそんなに大きいわけではなく、小児科経験は必ずしも必要ないと思う。

○受けられるサービス等資源の充実と地域の支援体制の充実

- ・訪問サービスだけでなく、小児のデイサービス、ショートステイができる病院ができるとうい。(3)
- ・毎日症状は変化し、急変しやすいため、成人のような在宅サービスが受けにくいし数も少ない。母が抱えてしまう。(3)

○母へのサポート

- ・母親が他の(同じ疾病の)母と交流する場があればよい
- ・レスパイトがなく、母の疲労が大きい(外出も思うように出来ず医療依存度が高いほど交代する家族もいない)。

○主治医、病院との連携

○関係機関のネットワーク作り

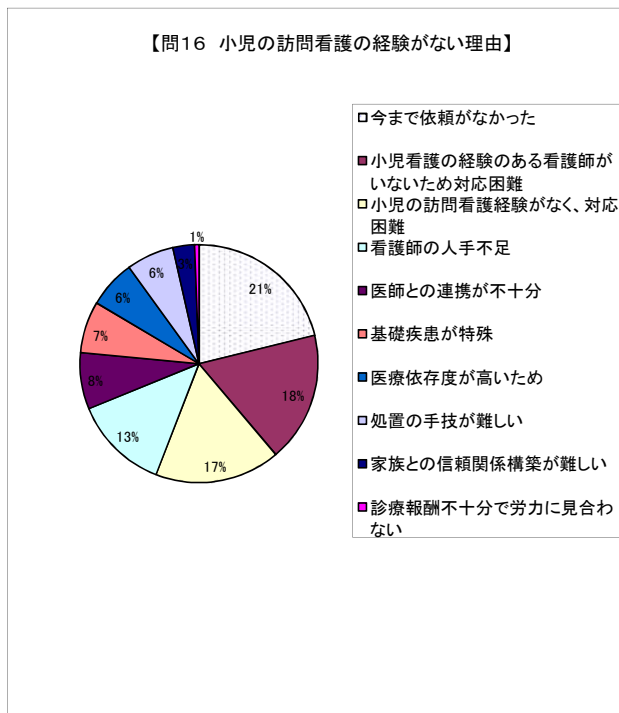
○マンパワーの不足

問15 貴事業所の近くで在宅医療を行っている小児がいることを聞いたことがあるか。
(問5で「ない」と回答した事業所のみ:母数71)

ある	ない	無回答	合計
19	50	2	71

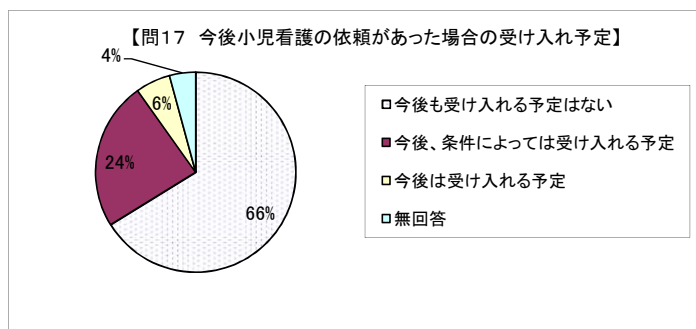
問16 小児の訪問看護の経験がない理由について(複数回答可)。
(問5で「ない」と回答した事業所のみ:母数71)

今まで依頼がなかった	36
小児看護の経験のある看護師がいないため対応困難	30
小児の訪問看護経験がなく、対応困難	29
看護師の人手不足	22
医師との連携が不十分	13
基礎疾患が特殊	12
医療依存度が高いため	11
処置の手技が難しい	11
家族との信頼関係構築が難しい	5
診療報酬不十分で労力に見合わない	1



問17 今後小児の訪問看護の依頼があった場合、受け入れる予定はあるか。
(問5で「ない」と回答した事業所のみ:母数71)

今後も受け入れる予定はない	47
今後、条件によっては受け入れる予定※	17
今後は受け入れる予定	4
無回答	3
合計	71



※受入れの条件

- ・緊急時の入院等医師(病院)との連携(7)、スタッフの充実(5)
- ・研修の機会と十分に準備を整えられる時間(3)
- ・医療依存度が高くない
- ・家族の同意(訪問看護の目的やケア内容、訪問看護時間や料金等)や関係
- ・24時間体制